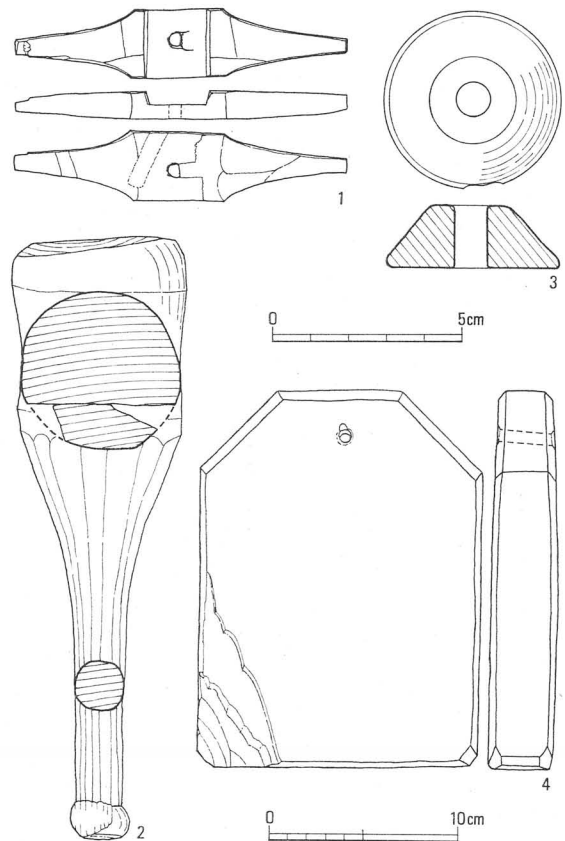


4 木製品・石製品（第7図）

木製品は導水路S D1525旧河川S D1560から出土した。糸巻1は横木で板目材の両端を削り細め、中央に相欠きの仕口を作り、軸木を通す孔を開けている（S D1525出土）。全長8.3cm、幅1.8cmで、昭和50年度の本調査でも同じ導水路から同形同大の製品が出土した。横槌2は割り材を用い、身部から次第に細めて柄部を削りだし、柄頭は太く削り残す（S D1560出土）。全長31.8cmで、使用痕が身部側周囲に残る。

石製品は旧河川S D1560とS D1545から出土した。滑石製紡錘車3は径4.7cm・厚さ1.7cmである（S D1560出土）。滑石製品4は用途不明である（S D1545出土）。全長20.0cm、幅14.8cm、厚さ3.5cmの将棋駒形をなし、周囲を面取りしている。頂部に開けた径0.6cmの孔には紐で懸垂した痕跡がある。重さは現状で2296gである。



第7図 木製品・石製品実測図

IV ま と め

平城京左京三条二坊六坪の調査は、今回を含めて4度に及び、その発掘面積は約6000㎡となり坪内の約40%を占める。遺構は、坪の中心に南北に屈曲する平均幅15m、延長55mもの大規模な園池を中心に、一定の数値をもって計画的に配置された2時期の変遷をもつ建物・塀などが検出された。園池とこの西方に位置する一連の建物群については、「曲水宴」などを行うにふさわしい公的な宴遊空間として、また園池北方は、庭園施設の管理・運営にあたる家政的な機能をもつ空間として利用されていたことが明確となった。

この遺跡は、従来から不明であった奈良時代の庭園の全貌を細部にわたって明らかにすると同時に、園池を中心とした坪内の地割り等の利用状況を知る上に格好の資料を提供し、更に木簡等の遺物からこの遺跡が、平城宮と密接な関係をもつ公的な場所であることが分った。

この遺跡の重要さから六坪内の一部ではあるが特別史跡に指定されたことの意義は大であり、今後も京内における事前発掘調査の必要性和これに対する十分な調査体制が強く望まれる。

